

# 保幼小連携だより 第4号

令和4年11月10日

—南城市保幼小連携事業—

南城市幼児教育センター

## 第4回保幼小連携事業 スタートカリキュラム実践発表及び講話

目的：スタートカリキュラムを検証し授業改善に役立てると共に幼児期の発達や学びを小学校へ滑らかに接続する。



接続期カリキュラムの研修から(R3・11)  
○活動が決まりきっている  
○児童の参画をどこまでするのか  
○失敗しないことを優先しすぎ  
○まずは児童に聞いてみる  
○児童がワクワクするような活動にする

実践発表者：古堅桂子教諭 一年生担任

実践発表【大里北小学校】

「園の頃どんなことしてたの」  
「どんなことしてみたい」

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を捉える



③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え



\*葉っぱのスタンプ遊び



⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



⑦自然との関わり・生命尊重 ⑥思考力の芽生え ⑩豊かな感性と表現



### 【成果】

○前年度からの理論研修や今年度の公開保育(馬天小学校の学校探検)・公開保育(松の実こども園)からの気づきや学びを授業実践に生かすことができた。○スタートカリキュラムを更に研修したいという意欲が湧いた。

### 【課題】

○4月と3月の変容を児童自身が自覚できる授業実践と学習のまとめが必要である。

○遊びを通して新たな遊びを生むという年間を通した継続的な実践(計画)に挑戦したい。

【改善策】学校全体(全職員)でスタートカリキュラムの研修を行う。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等について

講話：スタートカリキュラムの実践と授業改善  
講師：與儀毅氏 南城市幼児教育センター長

第4回合同研修会の様子をオンデマンドで配信しました。  
10月7日～24日まで。71回の視聴者数がありました。



### 主な講話内容

- 幼児期の学びと育ちを繋ぐスタートカリキュラム
- スタートカリキュラムの視点での授業改善
  - ・子ども観の転換(子どもは白紙ではない)
  - ・学習観の転換(知識伝達型からの脱却)
  - ・幼児教育・小学校教育以降の教育(主体的・対話的で深い学び)

## 合同研修会の様子



## アンケートより

### この研修で学んだこと

#### 幼児教育施設職員より

- 先生が、園で頑張っていることを小学校でも繋げていきたいとお話していましたが、小学校では簡単にはいかないことで大変な思いをされているんだなと感じました。しかし先生はとても工夫されていて子ども達がのびのび学習出来ているなど映像を通して感じました。
- 小学校においても、幼児教育を理解しながら、円滑な接続に向けての取り組みがなされていることが分かった。私たち幼児施設においても、小学校教育（学習指導要領）を理解していく必要性を感じた。

#### 小学校教諭より

- 桂子先生は児童の活動への介入を我慢している。私はつい声掛けをしてしまうので、2学期は気を付けたいと思います。話し合いの場所を変えているところも参考にしたいと思います。
- 活動（学習）の中の子どもの様子をうまくキャッチしながら、園で身に付けた事や育ちを小学校の学習に繋げていきたい。

### この実践発表や講話を聞いて、疑問に思ったことや質問

- 「朝顔で何をしたい？」の問いかけから「葉っぱのスタンプ遊び」が出て面白そうだなと感じた。その場合学級ごと違う流れで進めたのか。図工などにも関連するし、授業内容をどのように揃えるのか教えてほしい。評価はどのようにするのか。
- なかよしタイムをするのはいいが、1学期の学習内容が遅れていて、後半に急いで授業を行ったので定着していないのが心配です。スタートカリキュラムと授業内容とのバランスはどうか。他校の実践も聞きたい。
- 見逃しがちな目立たない子、トラブルの多い子などに対してどのような配慮、支援があり、個別の自信や達成感、自尊心につなげていけるか？聞いてみたいです。集団としての生活、活動、授業など、実際に見に行きたいと思いました。疑問思うこともっと知りたいし、学びたいと思います。
- 取組みとの時数とのバランスをどのように取るのか。
- 規律は、どうしているのかなと思いました。

## Q&A

Q：子どもたちの発想を取り入れると、授業の展開が学級ごとに異なる場合の対応はどのようにしていますか？  
評価は？

A：その単元で育てたい資質・能力は何かを学年でしっかり確認することだと思います。そうすることによって評価が共有でき、内容等の多少の違いは許容されると思います。

Q：スタートカリキュラムをすることで、標準時数は押さえられるのか、内容の定着は図られるのか心配です。

A：時数に関しては、1年生は他学年と比較しても、そもそも時数のゆとりがあります。とは言っても、従来のような学校のスケジュールでは対応は厳しくなります。欠時を出さない工夫が必要です。内容の定着については、スタートカリキュラムをはじめ、主体的・対話的で深い学びの授業改善をすることで、意欲的な子が増え、学習の定着がより図れます。

Q：規律はどうしていますか？

A：子どもたちは幼児教育施設において、ルールを守って遊んだり、園での約束事を経験しています。それを上手く引き出し、約束事を確認することが大切ですね。

回答 南城市幼児教育センター長 與儀 毅